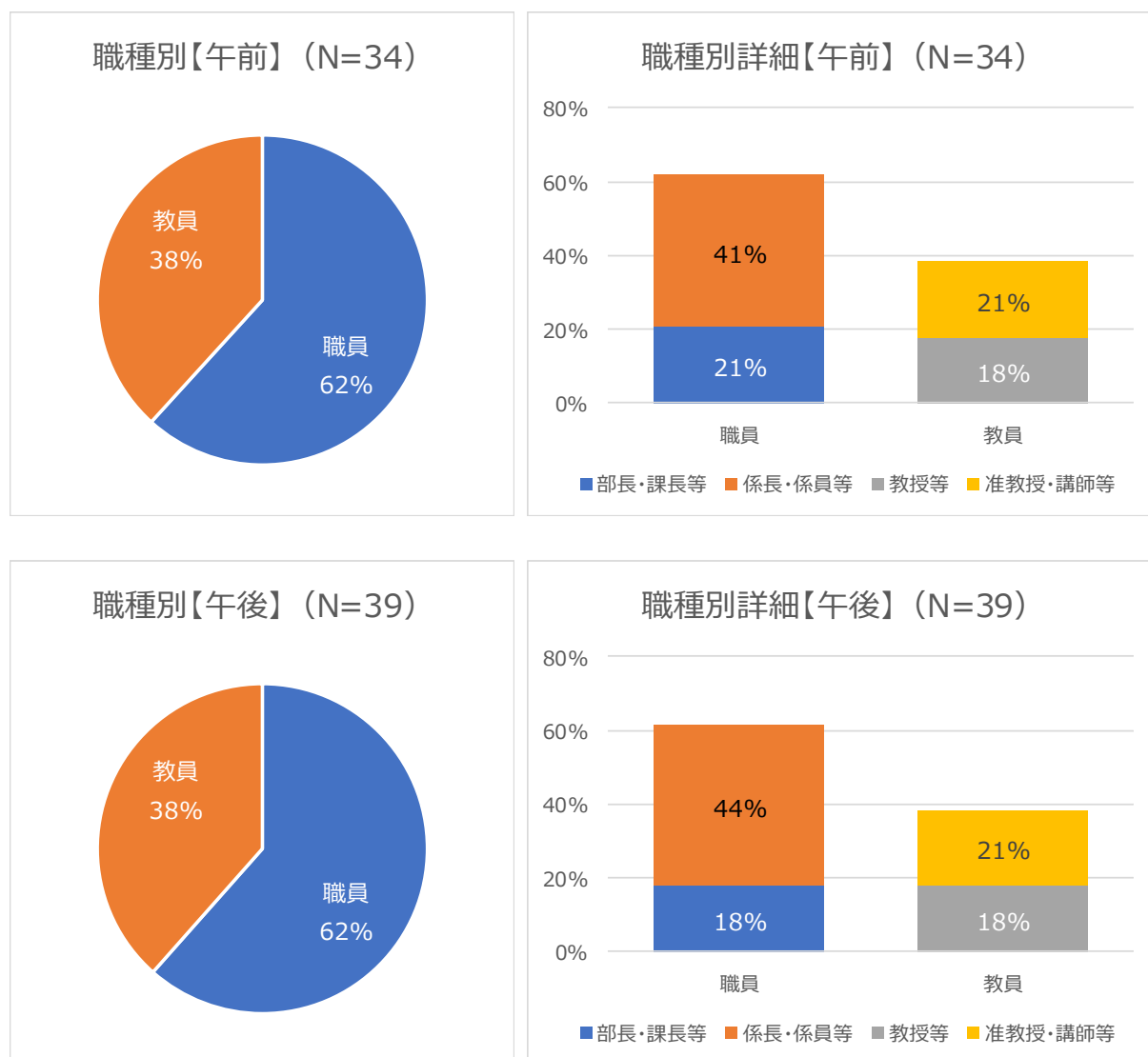
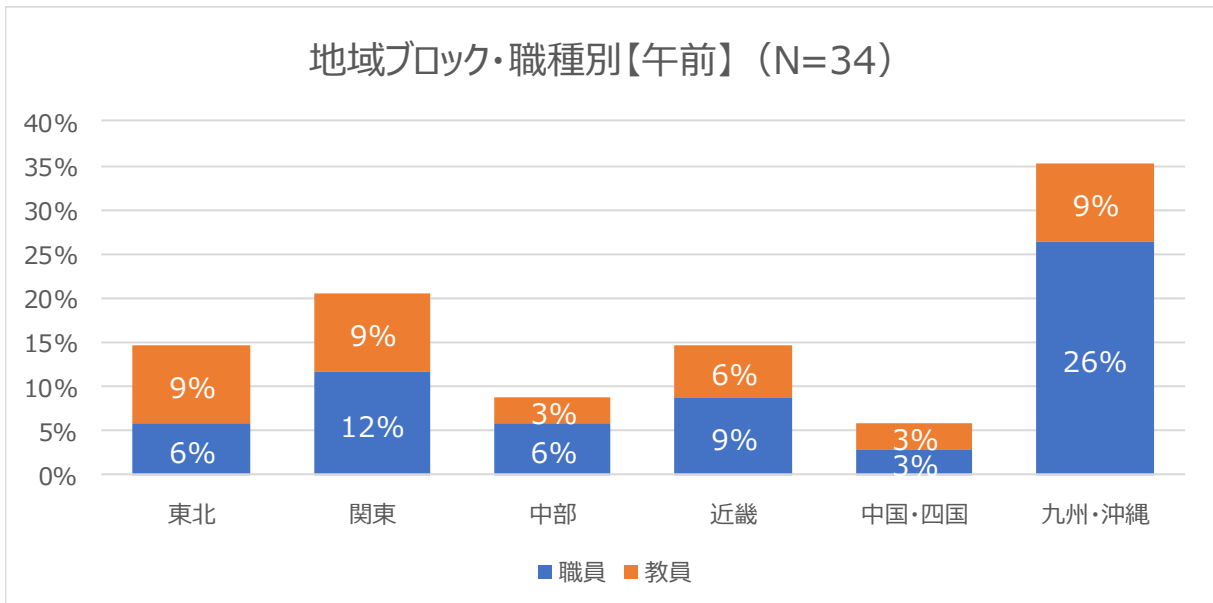
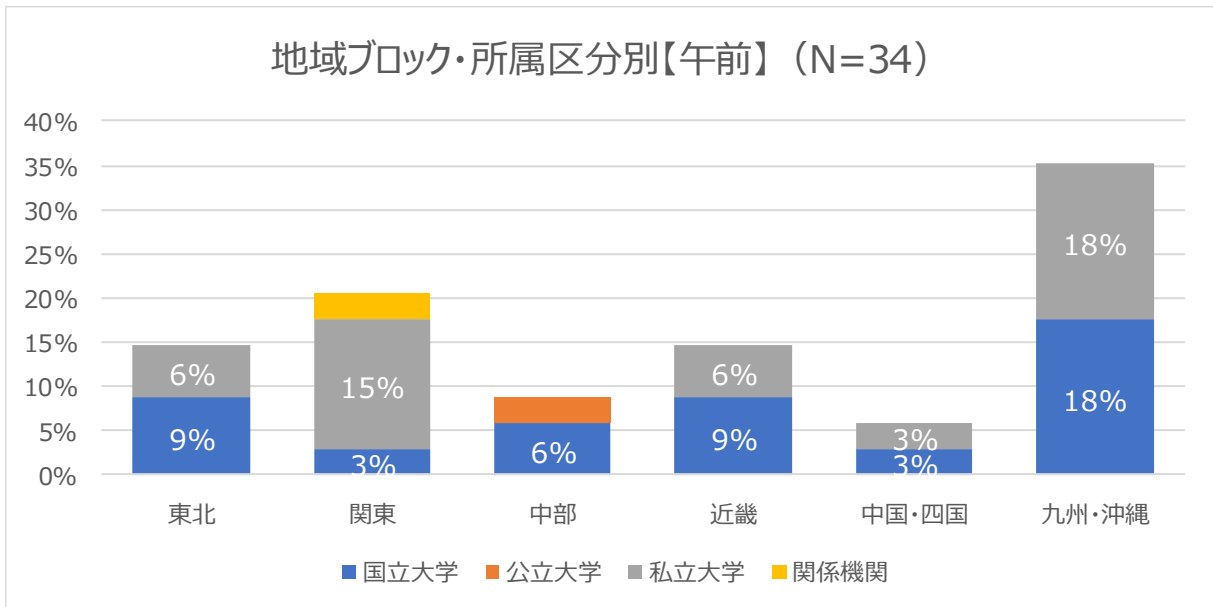
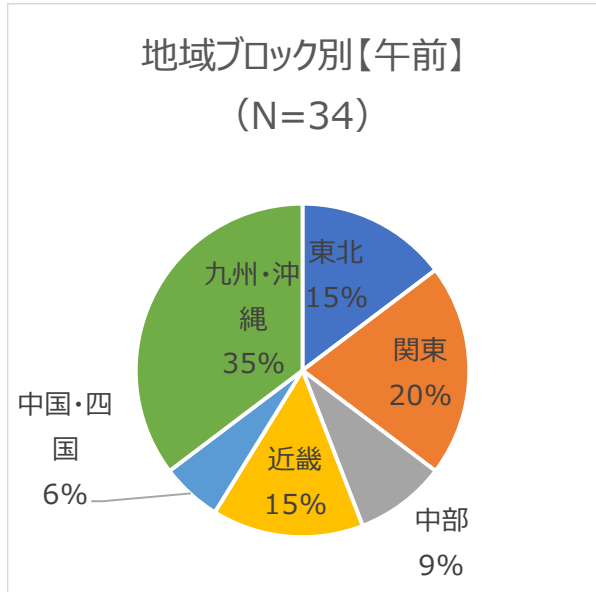
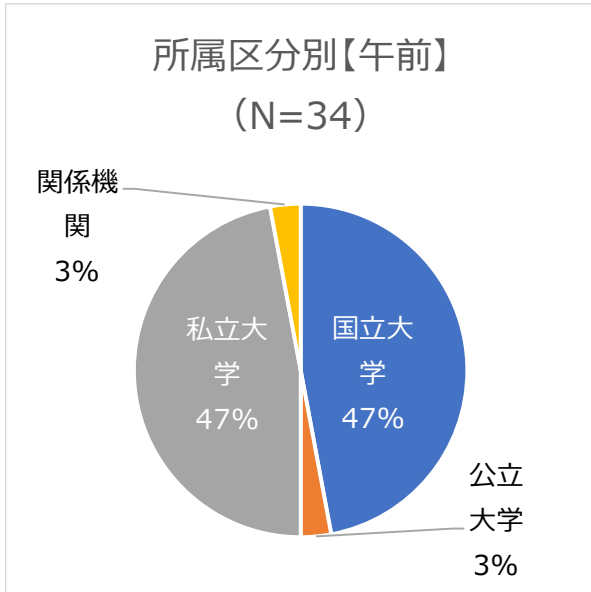


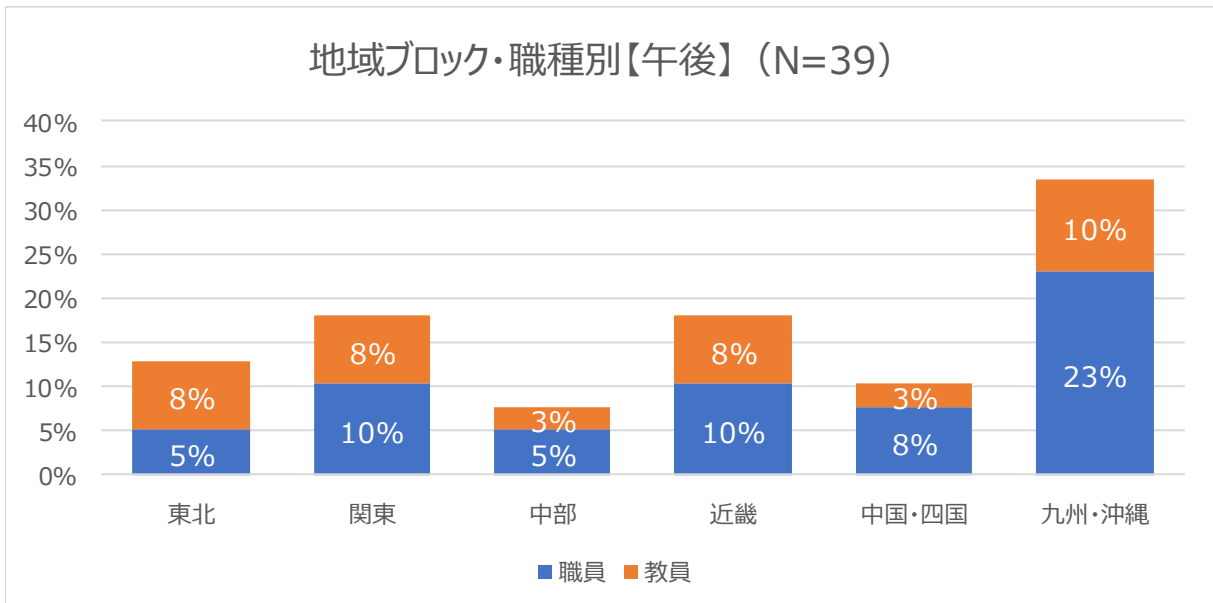
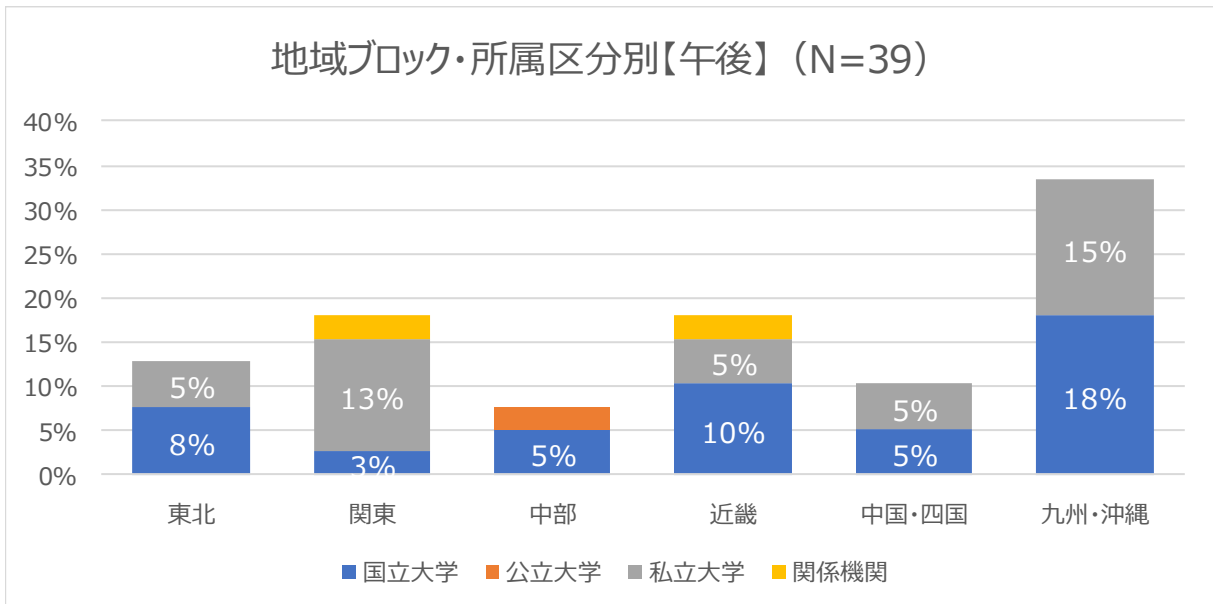
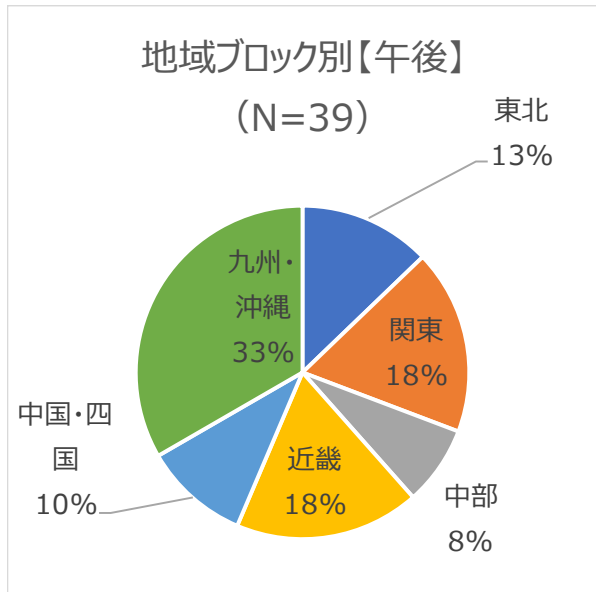
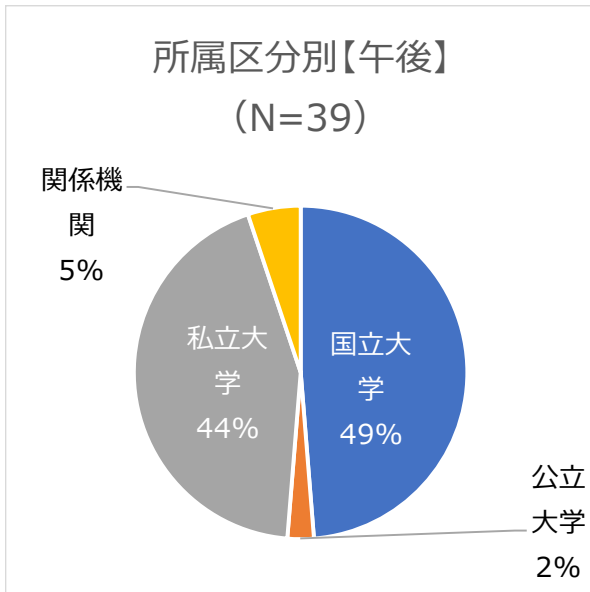
○ セッション1の参加者について

「継続的改善のためのIR/IEセミナー2018」のセッション1a【午前】には34名、セッション1b【午後】には39名の教職員等が参加しました。各参加者が申し込み時に申請した所属・職種等の情報を基に、参加者の属性分析を行いました。なお、「参加者」とは、国公立大学及び関係機関に所属する教職員であり、運営スタッフ7名も含んでいます。



職種別の参加者比率は、両セッションとも職員が62%、教員が38%でした。また、職員の職層を「部長・課長等」及び「係長・係員等」、教員の職層を「教授等」及び「准教授・講師等」に分けて示します。両セッションとも職員の係長・係員等が約40%と最も多く、次が教員の准教授・講師等で21%でした。今回は、各団体、組織等が取り組んでいる「IR実践を支える制度や技術」や「データ分析・活用」の事例が多く紹介されたことから、自大学でのIR活動に対するヒントを得るためや具体的な実践内容を参考にするために参加されていたと推察されます。





所属区分別では、両セッションとも国立大学と私立大学をあわせて全体の約 90%を占めており、それぞれほぼ同じ割合であった。地域ブロック別では、両セッションとも九州・沖縄地区が全体の 1 / 3 を占めており、次いで関東地区が多かった。

地域ブロック・所属区分別では、両セッションとも九州・沖縄地区の国立大学が 18%と最も多く、次いで九州・沖縄地区の私立大学が多かった。地域ブロック・職種別では、両セッションとも九州・沖縄地区の職員が最も多く、午前は関東地区の職員が 12%、午後は関東及び近畿地区の職員、九州・沖縄地区の教員が 10%と多かった。

以上のことから、開催時期が 3 月だったことと会場が九州工業大学だったことが影響し、九州・沖縄地区を中心に交通アクセスが良い地域から多くの職員の方が参加されていたと推察されます。

(大野 [鳥取大])

■区分表（共通）

地域ブロック	説明
北海道	北海道
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関東	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
中部	新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県
近畿	大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、三重県、滋賀県、和歌山県
中国・四国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州・沖縄	福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
その他	米国

職種	職種区分	説明
職員	部長・課長等	部長、課長、課長補佐、副課長、専門員、グループ長、グループリーダー、総括主査、事務長、室長、次長、部長、参事、副参事、など
	係長・係員等	係長、主任、主査、主事、専門職員、課員、係員、チーム員、職員、スタッフ、所員、特任研究員、など
教員	教授等	学長、副学長、学長補佐、部局長、教授、など
	准教授・講師等	准教授、講師、助教、など